

2023 年度

修 士 学 位 論 文

夫婦関係における愛着傾向及び対人ストレスコーピングが
関係満足度に及ぼす影響

—行為者 - パートナー相互依存モデルに基づく検討—

(概要)

指導教員

松田 幸弘 先生

大阪経済大学大学院

人間科学研究科人間共生専攻

DUONG CAM TU

夫婦間の葛藤は夫婦のみならず、家族の精神的健康にも影響を及ぼす非常に重要な要因である。したがって、夫婦間の葛藤場面におけるストレスコーピング（対処方略）を検討することは、夫婦の関係満足度および幸福感を向上させるとともに、人々の精神的健康についての理解を深化させることに役立つと考える。

アジア圏で行われた研究の結果から、葛藤が生じても離婚を選択するより、二人の関係を継続することはアジア圏の夫婦関係の特徴であると推測できる。個人主義の強い欧米の文化と違い、アジアの文化では団体やコミュニティーを重視し、家族の関係を常に維持することが広く知られている。この文化的な特徴は夫婦間の葛藤対処方略にも強い影響を与えるため、夫婦はストレスフルな状況においても一緒に乗り越えるように努力することも考えられる。

したがって、ベトナム人の夫婦を対象とする際、アジア圏の夫婦関係のこの特徴に焦点を当てるストレスコーピングを検討しようとした。すなわち、ストレスフルな時期でも二者間の関係性を維持しようとする対処方略である「関係焦点型コーピング」に着目した。

関係焦点型コーピングとは、ストレスフルな時期でも、社会的関係を維持しながら、認知的・行動的な努力を行うという概念である。

また、先行研究の結果から愛着傾向は葛藤対処方略に影響を及ぼすことが推測できる。ただし、夫婦の愛着傾向が関係焦点型コーピングに及ぼす影響を検討する研究は見当たらない。

したがって、本研究はベトナム人の夫婦の愛着傾向が関係焦点型コーピングに与える影響、および、愛着傾向や関係焦点型コーピングが関係満足度に及ぼす影響を検討しようとする。

それに加えて、本研究では行為者-パートナー相互依存性モデル (APIM) を使用する。従来、夫婦の関係満足度に対する影響を検討する際、主に個人内の要素に焦点が当てられ、個人間の影響を考慮した研究は限られている。そのため、本研究では、愛着傾向および関係焦点型コーピングの影響を個人内 (行為者効果) 並びに個人間 (パートナー効果) を同時に検討し、それらを比較することによって、夫婦関係の相互作用を保持しながら因果関係を明確にしようとする。

したがって、本研究の総合目的は、夫婦関係における愛着傾向および関係焦点型コーピングが関係満足度に及ぼす影響を検証することである。3変数の関係を検討するために総合目的を4つに分けた。目的①は愛着傾向が関係満足度に及ぼす影響を検討することである。目的②は愛着傾向が関係焦点型コーピングに及ぼす影響を検討することである。目的③は関係焦点型コーピングに及ぼす影響を検討することである。目的④は関係焦点型コーピングの媒介効果を検討することである。

この目的を検討するために、ベトナム人の夫婦を対象として調査を行なった。まずは、愛着スタイルの尺度および関係焦点型コーピング尺度をすべて日本語からベトナム語に翻訳した後、3人のベトナム語-日本語翻訳の経験者と内容を確認しながら、項目の修正を繰り返した。次、ベトナムのA国立大学の法学部で大学生に調査票を配布し、ベトナム人大学生の両親や知人の夫婦に回答を求めた。その結果、妻142人 (平均年齢 = 43歳、SD = 10.05)、夫139人 (平均年齢 = 45歳、SD = 9.94) から回答が得られた。78%の回答者は10年以上の結婚歴を有し、53%の夫婦は子供が2人以上いるとのことであった。最終的に139組の夫婦からの回答を使用した。

本研究は、ベトナムで初めて愛着傾向を測定する尺度および関係焦点型コー

ピングを測定する尺度をベトナム語に翻訳した。関係焦点型コーピングの内的一貫性が若干低かったが、重回帰分析を使用し、変数間の因果関係が先行研究と一致することが確認できた。これらの尺度は、構造が安定した日本語版から翻訳したため、ベトナム語版も各変数を十分に測定できると判断した。

重回帰分析により、先行研究と同様に愛着傾向や関係焦点型コーピングが関係満足度に及ぼす影響が確認された。また、愛着傾向および関係焦点型コーピングに及ぼす影響が確認された。このように、設定した仮説が概念的に正しいと考えられる。次の段階では、独立変数の間に相関があると前提したモデルに変数間のパスを入れた影響を検証した。つまり、行為者-パートナー相互依存性モデル (APIM) に仮説に基づくパスを入れ、構造方程式モデリングの分析方法を用い、AMOS28 でパス分析を実施した。

結論として、SEM を用いて行為者効果とパートナー効果も確かめられ、APIM で設定した仮説が支持されたと判断した。しかし、APIM では重回帰分析により確認されたパスが多少削除された。また、重回帰分析でも APIM でも愛着傾向の負の影響、および、関係焦点型コーピングの正の影響が確かめられた。そのため、次の段階で、関係焦点型コーピングの媒介効果に関する仮説を検討した。

媒介効果の結果は夫の回避愛着傾向は夫の積極的關係維持を媒介し、妻の關係満足度に影響を及ぼすこと、また、妻の回避愛着傾向は夫の積極的關係維持を媒介し、夫および妻の關係満足度に有意な効果を及ぼす。

本研究は、APIM の結果を重回帰分析の結果と比較した結果、二者間の影響を検討する際には APIM の使用が有効であることが確認された。本研究は APIM により、ベトナム人の夫婦関係における夫婦の役割の観点が確かめられた。その役割は、葛藤の場面において、ベトナム人の家族の場合に、妻の立場が夫より低く、

夫は家族内の権力者である。しかし、欧米文化の影響によりアジア圏の若者の考え方が変わりつつあるため、将来、伝統的な価値観が若年の夫婦関係に及ぼす影響の検討も必要であると考ええる。

また、夫の方は高い立場を持っているため、妻に譲歩することは恥とみなされ、面子を潰す行動としてとらえる。本研究で確認された、不安愛着傾向の高い夫が妻に譲歩・我慢する行動を長く続ければ、夫にとって非常な心理的負担になるだろう。近年、高い不安愛着傾向は家庭内暴力の予測要因であることが報告されたため、今後、この課題についてさらなる検討が必要である。

最後に、日本の研究（石盛他，2017など）では、夫婦間の親密性を強化する葛藤対処の使用は夫婦二者の関係満足度を高めることが確認されている。将来、本研究のように夫または妻の行動は相手の関係満足度に及ぼす影響を検討する代わりに、夫婦二人が一つのペアとして夫婦関係を評価する必要性がある。

従来、ベトナムでこのような研究が見当たらず、本研究は将来、関係する研究の基礎になる意義があると考ええる。それに、多く研究された欧米や日本の夫婦関係以外、本研究のようにベトナム人の夫婦関係の検討を通じて、国々の対人ストレスコーピングに関する理解を深化させることに役にたつだろう。